慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	K. Asakawa: The Origin of tha Feudal Land Tenure in Japan
	IN. Asakawa. The Origin of that educate and Tenure in Sapan
Sub Title	
Author	間崎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.4 (1915. 4) ,p.473(109)- 475(111)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150401-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

批 Za. 紹 介

The By Nation's ۳ (C) Wealth Chiozza Will it endure Money

千九百十四年

る英國の耐久力如何を知らんと欲する者の滲劣に資する所尠 観聞とは没交渉なるも、 **「ち帯管ようまけり下されることでは、これで観の富力に顕著は交戦國中に於て最も富めりとの評ある英本國の富力に顕める局に一大影響を及ぼすものなりと云はざる可からず。本の結局に一大影響を及ぼすものなりと云はざる可からず。本** の結局に一大影響を及ぼす て以來同盟側並に協商側は共に持久の鏡を講じつしあるもで以來同盟側並に協商側は共に持久の鏡を講じつしあるも歐州大混戦の初期に於て獨逸が其四討東伐の軍略に失敗。 小形二百六十四頁東京電價五十錢 発 資 行 らず。 上梓せるは る綿密なる統計的研究を載せたり。著者が本書の稿を丁り 如くなるが、 昨年の春期にして從つて著者の見地は今次の大 若し果して然りとせば各変戦闘の富力は戦争 著者の引用する統計数は戰爭に對す ものなりと云はざる可からず。 敦 0

て國民を覺醒せんとするに在り。著者論旨の嬰點は左の如し 英國が巨大の富を生産し之を蓄積するに至りしは近代のこ 本書其物の目的は英國の富の基礎甚だ漢弱なる所以を說き を出でず(超經濟學講義二〇五、アー)のもの、多くは彼れの與へたる 所な 質の説明に より 存することを知れり(キャナン前掲書三三九頁) 分配論 リ氏の所論は客觀的抽象的に論し、 Rent per Acre 三礼 齊學は初 るに足る可しる 6 IJ n **緘釋して分配行程に及びたる結果** 會分氏階配の π. さも O) 級所得論の範し めて 本體と爲したることは彼が空前の創見 欠陷あり 今日の分配論に於て収扱はるゝ所 見の 以外更に に限定し、 質に、 Wages per head, profit percent, 時流を扱くこと大なるを避す との非難は解す可からざる 重要なる比例的分配の 、地代、窓の営否は 力 たる問題と其範圍と 1. 一度出でン我經 的研究を以て賃銀及利潤の 勞働價值原 實際事

三億磅ならんと思ばる。 なり()共に千九百十三年の統計) 而して一ヶ年の富の蓄積は 萬磅にして、 見込價格なりとす。 び有形資本の價格に非ずして其生産力を基礎さして算出せる 八年に於て約十八億四千四百萬磅に上りたるが、千九百十 此等の貨物の生産並に勤勞等より生ずる總ての收入は千九百 含むものなるが故に、國民の收入は勿論是れ以上に上れり。 一人當り二十五磅)此數字は單に貨物の生産額の原價の て英國は一 振けざり 於ける富の總額は百二十億磅に上るならん。是れは土地及 には多分二十一億磅に避するならん。又一方干九百十四年 るに至り ケ年に約十 其他諸外國に投資せる額は十九 英國 前には人口比較的に稀薄にして、 此外英殖民地に投資せる額は十 世紀 一億千二百萬磅の富な産出せり。(人 は俄然富國となれり。 の後末に 百萬磅の富む産出せりの人口、國となれり。千九百七年に於に於て製鐵事業に石炭を應用較的に稀薄にして、富の産出 億三千五百萬 七億八千 2 24 磱

國は世界に於ける石炭の金産額の約一半を年々産出 鎖物にも非ず、 用の燃料たる石炭に在る心知るなり。 大富國と爲りたる原因を聲わるに、其原因が農作物にも非ず 此巨額の富の産出は永遠に持轍せらる可きか。 八十五年には英國の産出額は世界全産額の四割に 縮織物毛織物の原料にも非ずして、 千八百七十五年迄は英 今英國が 然

> 英國民 普及す 民の負擔な輕減するは是れ义現代の國民の義務なりとす。 節約を獎勵せ せば、 からず。 將來石炭に代る可き動力の發見又は發明せられたる曉に於て め備ふる所なかる可からず。 なるを以て、、假りに一世紀牛後に於て石炭の供給杜絕すると 十一年に於ては英米其位置を轉倒して米の産額は遙かに英の の炭礦は約百七十五年後に空虚となるに至る可し。若し果し 上に在りの 衆國単に獨逸產額の合計よりも遙かに 分を出すに過ぎず。 然らば、 現代の國民は一世紀华後に現出す可き此狀態に對して際じ るの要あり。 をして他國民との競争に堪へしむる為めに**数**育を益々 英國は再び一世紀中前の如く貧國とならざるな得す。 同九十五 石炭は現今に於ける富の大量生産に不可飲的の要素 加之、 英國や富の將來は暗憺たるものなりと謂はざる可 しむるは其一策なり。 年に 今日の供給率にして維持せられんか、 は三割三分とな 八百七十五年に於ける英國の産額は 動力調査委員會を起して石炭の 公債を償却して未來の國 多量なりしが 一人國の産額は合品がに共二割五 **干**九百 英國

Land American Tenure Asakawa: EconomicThe Review, Oct. Jaqan, Origin of tha (Reprinted 1911) from the Feudal

四洋とはまだ交通の開けなかつたその昔、我が國で恰も泰

第四號 一〇九

(四七三) 批評と紹介

に大化の改新を促すに至つたのである。而して支那の巧妙なずるに至つた、これ實に氏の制度に特有なる危險であつて遂には急速に樵勢を得て殆ど帝權をも凌駕せんとするものを生てゐた。地方分權の勢が隆盛となるに從つて「氏の上」の中 之か研究すれば氏の制度のうちに、歳月の久しきに亘ちば自る國家社會主義の一制度を換骨脱胎した大化の新政も孜綱に **注として皇族の各員とその部曲の民及びその土地の上に存し** 日本民族全部の長であらせらるしけれども實際上では島曜は 我が國太古の 制度は所聞氏の制度であつて天皇は理論上、

> であつた、又班田以外の登記洩の田地も尠からず存したのでして實行せられた。こは主として帳簿上の調節に依りたれば世人の思惟するが如く實行の困難なものではなかつたが官憲支配を受けぬ民も存してゐた。第二に、土地均分の原則は梳文配を受けぬ民も存してゐた。第二に、土地均分の原則は梳文配を受けぬ民も存してゐた。第二に、土地均分の原則は梳文配を表せんとはしなかつた日分田に對して買物を挑はず國家の 婴 食慾なる躯併の繁を考ふれば改新國家の斯くも短命なりしば ある、 怪むに足らない。その失敗より であった。 の發達のために必ずや軈て顕覆を見るべきは明々自々なる所 といふに止つて自由民間の階級の差別を除き或は不自由民を に新制度に於ては自由民は相互の上に公権の使用を許さない んだ、 言へば新政府の官吏はもとの家長貴族と全然同一の人を以て 減に瀕すべき要素を含んでゐるのであつて且當時の土地と人 民の全部を悉く含んでは したので私情より 放に田地の均分を基礎とする國家の制度が殘部の土地 故に公地公民の原則は到底實行不可能であつて加ふる 加ふるに貴族と不自由氏との不輸租田丼に寺院の 國事を見るの舊習を容易に脫却する心得な ねなか して封建制度は生れたのだ(協 つた。 即ちその人民につい 7

論鋒と着眼の餓利なるを察す 以上は本論に進まんがための序論に過ぎれ る事が出來よう、 いけ 而して本論 して本論た

のである。 けい(まさき) **寺領性質の研究」の讀者は必ず本誌を併讀せられん事を勸め** 田博士の賭論文及び昨年出版せられた文科大學和婴第一「社 に名論卓観を見るのは吾人をして言い難い興味を備さしむるれといひ何づれも外國に於て外國文を以て發表せられたもの て斯界の先驅となつた福田徴授の著述といひ今又朝河氏のそ 巧妙に概括せられた、これまだ野眷にも見ざる處である。智 錯紫せる問題を捕へて僅々敷買の中に快刀鼠廓を斷つが如く がその第一の鮎は氏の最も得意とする研究らしく極めて複雑 級の勃興して荘園を支配するに至る經路を叙述するのである 封建制度の漸次の發達は一、莊園の發生發達と二、 予日本論文に多くの論據を與へたと推せらる、中 武士凯